

岡崎は住みたい自治体ランキングでは三河No.1!!

駅を魅力的にすることが実行的な人口減少の対策になる

不動産情報を扱う会社が集計した「住みたい街ランキング2018 愛知県版」で住みたい自治体ランクに岡崎市が刈谷市、豊田市を抑えてトップに選ばれました(総合は6位)。他方で、「住みたい街(駅)」においては、JR岡崎駅や名鉄東岡崎駅はJR豊橋駅、JR刈谷駅の後塵を拝し、三河では3位、全体では11位との結果でした。

このことは、全体的には住みたい自治体だが、駅前はちょっと魅力に欠ける。そう、言えそうです。とすれば、そこにしっかり梃子入れをすれば、より「選ばれる街」になることはまちがいありません。

人口減少社会への手立てを

岡崎も例外なく少子高齢化、人口減少社会を迎えます。

今年(2018)の4月時点での人口は386,943人で年少人口(0~14歳)が56,605人で約15%、生産年齢人口(15~64歳)は243,301人で約63%、そして、老人人口(65歳以上)が87,037人で、全人口に占める割合は約22%です。

今後は人口のピークが2030年で396,056人、10年後の2040年で393,442人と一見あまり変

化はありませんが、その内訳をみると、年少人口は2030年で約13%、2040年は約12%となります。

他方の老人人口は増加を辿り、全体に占める割合は2030年で約27%、2040年には約31%になることが予測されています。

つまり、これから20年で人口動態におおきな変化が訪れることは間違ひありません。

だからこそ、若い働く人たちに岡崎に住みたい、引っ越して子育てをしていきたい、そう思い、定住してもらうことが必要なのです。

公共交通網への整備と住環境の整備を!

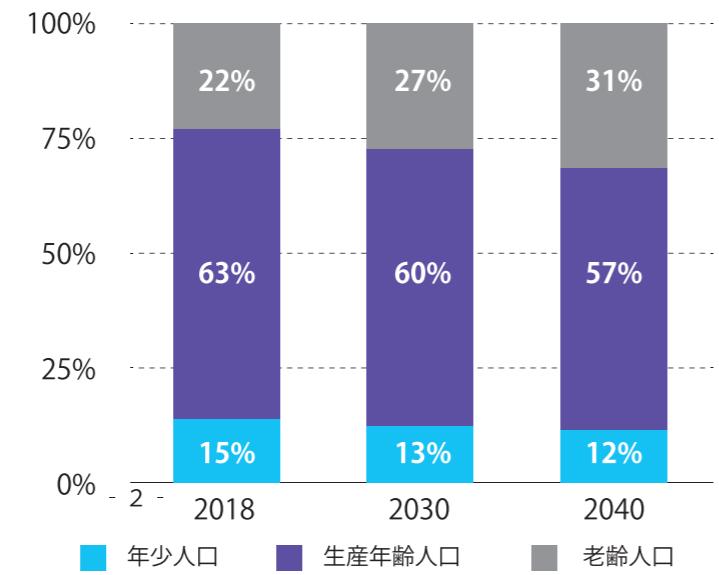
過去から積み上げてきた財産により、三河で住みたい自治体の首位に選ばれたのは誇るべきことです。ただ、そこに甘んじることなく、次は、駅周辺、拠点となる場所を中心に、公共交通網を組み直し利便性を上げ、他方で、住環境の整備や子育て施策を強化することです。

それが、社会増、つまり循環する社会を作り上げる大切な一手になるはずです。

そのためにも、迅速な対策を進めていく必要があるでしょう。

岡崎市の人口動態

説明	2018	2030	2040
年少人口	56,605	49,739	47,240
生産年齢人口	243,301	240,956	224,833
老齢人口	87,037	105,360	121,369



公園の整備こそが「選ばれる街」にとり重要!!



対話集会での議論のたたき台に使用された模型



「Quruwa」エリアの概念図

籠田公園の再整備がいよいよはじまります

を設えるなど、ファミリー層に優しい公園となります。

公園は、「選ばれる街」となる重要な施設です。

岡崎市は無料で象を見ることができる東公園、ファミリーでも格安で楽しめる南公園、水遊びが出来ることに加え、近くに大型ショッピングセンターとカフェがある奈良井公園があります。

それに次ぐ施設として籠田公園の再整備が進められています。再整備は芝生を張りめぐらしたうえに、水遊びする場所があり、小高い山を築くことで、自由に創造性あふれる遊びが可能な場所

加えて、籠田公園は、歩いてぐるぐる周ることを目的とした「QURUWA」と名付けたエリアの一端に位置しています。このエリアの整備が進めば、より快適に過ごすことができる場所になります。

公園再整備案に至るプロセス

籠田公園の再整備は、設計段階から住民集会を何度も開き、模型をたたき台に対話しながら最終案に至りました。

公園はさまざまな人の使用が予測される場所です。

だから、地元の方の意見はもちろんのこと、さまざまな方の意見を取り入れることが必要です。他方で、だからこそ、みんなが納得するものに仕上げるには難しい側面があります。

今回の再整備は、その矛盾を克服するために、視覚的な模型をもとに議論を重ね、多くのひとに目配せをしながら最終案へ至りました。

つまり、非常に丁寧なプロセスを経たといえます。そして、このことはこれからの公共施設のあり方として大切なことです。

さて、しばらく籠田公園は工事に入りますが、完成を心待ちにしています。